

審 議 (会 議) 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和7年度神奈川県造血幹細胞移植推進協議会		
開催日時	令和7年12月18日（木曜日）15時00分～16時30分		
開催方法	神奈川県がん・疾病対策課執務室内打合せスペース （「Zoom」を使用したハイブリット開催）		
（役職名） 出席者	(会長) 後藤 裕明 一島 規子(以下、50音順) 鬼塚 真仁 菊池 裕之 近藤 和之 田中 正嗣 辻井 祐幸 前島 藍 水澤 弘子 水口 詩代 [小畠 美知委員代理] 村上 忠雄		
次回開催予定日	未定		
問い合わせ先	がん・疾病対策課疾病対策グループ 造血幹細胞移植担当 電話番号 045-210-4795 ファクシミリ番号 045-210-8860		
下欄に掲載するもの	• 議事録 • 議事概要	議事概要とした理由	不確定な情報であって、公開すると混乱を生じさせるおそれがある情報（神奈川県情報公開条例第5条（3）の内容）のため
審議（会議）経過	報告(1)骨髓バンク・さい帯血バンクの状況 <資料1について、事務局から説明> (後藤会長) 今年度も例年との大きな差はないという状況で、骨髓ドナー登録が進んでいるという報告であった。 ただいまの説明に関する質問があれば、ご発言いただきたい。ご発言がなければ、続いての報告に移るとする。		

報告(2)神奈川県造血幹細胞移植推進事業について
<資料2について、事務局から説明>
議題(1)骨髓ドナー登録者の増加に向けて
<資料3について、事務局から説明>

(後藤会長)

ただいまの説明に関する質問があればご発言いただきたい。

以前の協議会でも話題にあがったが、神奈川県の特徴として、人口の割には骨髓ドナー登録者数が少ない。その理由として、血液センター所在地別で骨髓ドナー登録者がカウントされることが要因ではないかという意見が常にあった。具体には、神奈川県在住で東京にお勤めの方が、東京の登録会場で登録した場合、東京の登録者としてカウントされるといったケースである。そういう要因のため、人口あたりの骨髓ドナー登録者数が少ないという見た目上の数字に、大きくこだわる必要ないとも考えられる。

大学等のキャンパスが多いので、学生等の若いドナー登録者が多いという特徴もあり、自慢できる点と思う。ただし、報告(1)骨髓バンク・さい帯血バンクの状況の中で報告があったように、この中にはコンタクトがとれなくなる方も、一定数含まれる可能性があると考えられる。

また、献血並行型の登録が多いという特徴もあり、さらに促進するためには骨髓ドナー登録説明員を増やす必要があるという趣旨の説明もあった。

ドナー登録を今後、増やすあるいは維持していくために、このような対策が良いといったご意見や、説明員の養成に関してご意見があればご発言いただきたい。

本日、代理出席の水口委員から、ご意見やご要望があればご発言いただきたい。

(水口氏 (小畠委員代理))

報告にあった映画の上映会は、全国の自治体でも取り組まれている。工数はかかるが参加者の満足度や理解度が非常に上がるといった傾向がある。他方で、人が集まるところでいかに上映するか、場所選びにも課題があると聞いている。この映画上映会のような、何かしっかりと時間をとって学ぶ機会が、特に若い世代に設けられると良いと考えている。

また、骨髓ドナー登録説明員養成講座の開催場所の均てん化について、取組みいただきありがとうございます。東京にキャンパスを有する大学で、神奈川県にもキャンパスを有する大学が多い。大学のキャンパスでの登録会実施は登録者獲得のみならず、普及啓発の側面もあるため、骨髓ドナー登録説明員の増員について、是非ともご協力いただきたい。

追加の情報ではあるが、日本骨髓バンクは令和8年1月20日に、スワブという口腔粘膜採取の方法でH L A検査を行う、新しいドナー登録方法のトライアルを開始する予定ある。令和7年度内に3千名のドナー登録獲得を目指しオンラインドナー登録をプレスタートする。

本格導入については、最速で令和8年度中の予定となっている。スワブ検査導入の際にはQRコードをお知らせする形式で、オンラインで登録者を募れるようになり、説明員の方のみならず様々な方に登録推進の活動にご参加いただけるようになると期待をしている。そのような環境でも正しく骨髓バンクの仕組みを知ることが最も重要になるので、正しい情報を伝えていただく担当手の方を増やすという意味で登録説明員の養成講座が非常に意義深いものと考えている。

(後藤会長)

今のスワブの導入によりH L A検査が可能になることは、登録のハードルを下げるに繋がると考えられるので、成果が上がることを期待している。

骨髓ドナー登録説明員の養成については、村上副会長はご意見いかがか。

(村上副会長)

意見ではなく報告だが、日本赤十字社及び県の協力のもと、年2回程度の養成講座を開催し、比較的若い説明員が増え活動に参加する方も多くなっていることから、会としての活動も増えている。

そのような中でも課題がある。一つ目は若い説明員は平日に働いている方が比較的多いことから、平日の登録会への参加が難しいことである。

二つ目は、献血ルームや献血バスの登録会場で活動をする際に、説明員として登録後すぐに現場で活動することが難しい点である。この点については、新規の説明員の方が現場での活動に慣れるように、ベテランの説明員と一緒に献血ルーム等で活動をする試みを実施するようになった。今年度の新規の説明員の方は、非常に前向きに取り組んでいることから、これから更なる活動ができるのではないかと期待している。

他の都道府県の話も聞いていると、県の各団体には特にご協力いただいていることがわかり、感謝している。

(後藤会長)

村上副会長への質問になるが、令和5年の説明員養成講座はオンライン開催となっている。オンライン開催の方が多くの方が参加しやすい等の利点があると思うが、実際いかがか。

(村上副会長)

養成講座は座学だけではなく、ドナー登録を検討している方への説明等の演習、ロールプレイングも実施することから、対面開催が望ましいと考えているが、令和5年は新型コロナウイルス感染症の関係で対面開催ができず、オンライン開催となった。

対面開催では様々な形でお話をして、受講者にも実演いただくという方法が、効果的ではないかという声もあったことから、令和5年度の2回目以降の養成講座は対面で開催している。

(後藤会長)

養成講座の対面での開催方法の利点について承知した。

その他、ドナー登録者の増加に関して、ご発言いかがか。

(辻井委員)

私は、ライオンズクラブの四献（献血・献眼・献腎・骨髓移植）委員会の委員長を務めており、今年で3年目（単年度制で3期目）になる。四献委員会の活動の中で、初めて骨髓ドナー登録説明員養成講座を開催することになった。開催予定日は2月8日で、定員約30名を予定している。ライオンズクラブから受講者を募り、村上副会長をはじめとした、神奈川骨髓移植を考える会に養成講座の講師を依頼している。

ライオンズクラブは献血活動にも取り組んでいることから、ライオンズクラブ内で骨髓ドナー登録説明員を養成し、ライオンズクラブが参加する献血会場で骨髓ドナー登録会も開催できる点において、とても意義のあることだと考えている。

しかし、1つ問題点がある。ライオンズクラブは、神奈川県と山梨県で、約3千名の仲間がいることから、養成講座の募集をした際に少なくとも50人単位で集まると思われる。そうなると、一番のネックになるのは、ロールプレイングが困難な点である。説明員と受講者が1対1で行うロールプレイングですと、骨髓移植を考える会の説明員の方に多くの参加者に対応いただくなることになる。その点が問題で、ここ3年間足踏みになっていたが、ライオンズクラブ全体ではなく、まずは委員会のメンバーだけで受講することとした。今後、ライオンズクラブの中で説明員を増やして、活動を増やしていく考えている。

(後藤会長)

非常に心強いご発言、ありがとうございます。

指導にあたる人手が足りないんではないかというようなご発言があったが、村上副会長いかがか。

(村上副会長)

人手が足りないというよりも、ロールプレイングの方法の問題だと

考えている。たしかに、普段のように説明員 1 名対参加者 1 名のロールプレイングは難しいと思う。ただ、1 対 3 以上での実施になると、受講者一人当たりの実演時間の減少または講義時間延長といった時間の制約があることから、説明員 1 名につき受講者 2 名での実施を検討している。

県主催の養成講座では、1 会場当たり 10 名、多くても 20 名程度であるが、今回は、ライオンズクラブが初めて開催し、30 名の参加者を集めたいとのことなので、きっちりと対応できるよう神奈川骨髓移植を考える会も頑張りたいと考えている。

(後藤会長)

ライオンズクラブでの養成講座について、前向きに進んでいくといいなと思う。ライオンズクラブの会員はすごくコミュニケーション能力にも長けた方がきっと多いため、説明員として適任の方も多くいると思う。引き続きご協力願いたい。

その他、ドナー登録者の増加に関して、ご意見いかがか。

(水澤委員)

先ほど、水口様から、若者の登録率がすごく上がっているとの話があったが、増加率はどれいくらいか。

神奈川県内には大学のキャンパスの数が約 50 と多い。また、相模原にも小田急線沿線に大学が増加しており、ユニコムプラザという大学と地域の連携の施設でも何か活用できるのではという思いもある。

また、ポスターについて、電車の中でも拝見したことがあり、その際にすごく若者向けのポスターで、今風なポスターが若者たちにヒットするのではと感じた。やはり、このような取り組みが、若者に興味を持ってもらう点で大事であると考えている。

(水口氏 (小畠委員代理))

具体的な数値として増加率を持っているわけではないが、私どもの年度の報告書のグラフを用いて説明させていただく。10 年前と比較すると、20 代の年齢別登録者数は上がっている。また 1 年単位で見ても、特に大学生や新社会人が多い年の方々の登録数は、しっかりと積み増しされている状況になっている。毎年、大体 3 万 5 千人から 3 万 7 千人近く新規で登録されているが、その約 7 割が 30 代以下の登録者となっている。そのため、30 代以下の登録者を増やすことで、お年を召したとしても各年齢のドナー登録者が残っていく。こういった理由から、皆様に若年ドナー登録の推進をご協力いただいている。

企業との交流は、日本骨髓バンクとしても是非ご協力いただきたいと考えている。多く学生は企業に就職される。その際の面接等で「学業や大学時代に力を入れたことは何か」と聞かれた際に、例えば「骨

髓バンクの支援活動をした」と言えるような機会をどう作っていくかという観点でも模索をしている。その機会は、学生の中だけでの営みではなく、学生と企業、学生とライオンズクラブといった異なるバックグラウンドの方との「協働」をする経験を、骨髓バンク事業の支援という場で積んでいただきたいと考えているが、現時点では答えがない。そのため、各地域や各大学、或いはそのネットワークの中で、一つ一つ構築していきたいと考えていたため、大変貴重なご意見をいただき、ありがたい。

(後藤会長)

ありがとうございました。

菊池委員、ご発言いかがか。

(菊池委員)

この骨髓ドナー登録だけに限らず、献血者の確保という部分でも、若年層をどのように取り入れるかということが、大きな課題になっている。そのような中では、学域ドナー登録会が 69 会場で開催と報告があったが、神奈川県赤十字血液センターでも、特に 20 代の献血者を増やすために、大学へバスの配車回数も年々増やしており、令和 6 年度では、バスを 1 年間に 138 台分稼働した。そのうちの 69 会場という数字だったため、学域での登録会の機会を作っていくと若年層に対してのドナー登録が望めるのではと感じた。

現在も、学生の皆さんに参加いただくために、広報活動として、ライオンズクラブも献血実施の際には大学にお越しいただき、学生の皆さんに献血参加を呼びかけている。このような機会で増やしていくければと考えている。

(後藤会長)

ただいまのご発言のように、学生や若い方の向上心がかなり高いというのは、すごく心強く思う。

他に何かご意見いかが。

ご発言がなければ、続いての議題に移るとする。

議題(2)神奈川県造血幹細胞移植推進協議会の今後について

<資料 4 について、事務局から説明>

(後藤会長)

骨髓移植という治療、骨髓ドナーの登録、造血幹細胞の採取等を推進することを目的に本協議会が運営されてきた。医療に関しては、神奈川県立がんセンター、東海大学病院等、県内で確立していること、ドナーの登録に関しても今後の四者会議がホルダーとなって進めるこ

とで、既存の会議体に活動の場を移しても良いのではないかという提案であった。

ご質問ご意見はいかがか。

(鬼塚委員)

現在、本協議会に関しては、目線が骨髓ドナー寄りになってるというのは以前から感じていた。たしかに、骨髓ドナーリクルートとその安全、啓蒙活動は非常に大切ではある。一方で、我々診療科からすると、実際に造血幹細胞移植を受けた患者の移植後のこと、神奈川県或いは国の政策で足りないところがあると認識している。例えば、造血幹細胞移植後のワクチン接種や、妊娠性等の様々な問題があるので、会議体を分けるという考え方賛成である。

また、雇用主等の企業側への啓蒙活動に対する協議が足りないのでないかと以前から感じている。骨髓バンクに登録されているドナーの多くは社会人であり、骨髓や末梢血幹細胞の採取を行うときに、必ず就労の問題が発生する。例えば、有給休暇を利用してしっかりとお休みできる事業所、ドナーになることが決まってから数週間、感染症予防のために在宅で勤務できる事業所等、非常に理解のある事業所もある。しかしながら、全く理解のない事業所もあることから、骨髓提供に関して理解を深めていただくなため、企業側への啓蒙活動必要であると考えている。

(後藤会長)

実際に骨髓ドナーになった方に対する支援について協議する場は、四者会議かと思われるが、事務局から発言をお願いしたい。

(事務局)

大変貴重なご意見ありがとうございます。ドナーとなる方々が、就労等を安心して継続し、提供いただける社会を目指すということは大変重要であると考えている。

また、事業者側への啓発活動を県で広く実施すべきという点については、造血幹細胞移植に関するだけではなく、癌を治療される方や難病を治療される方についても、働きやすい社会を推進していくという神奈川県の共生社会の推進という理念に趣旨を同じにするものだと思う。

四者会議等で企業側への啓蒙を含めた啓発活動の詳細を議論したり、他の患者支援、共生社会の推進という施策もあることから横串刺していくことについても議論いただけるよう考えていく。

(後藤会長)

鬼塚委員、いかがか。

(鬼塚委員)

実際、ドナーの方はのすごく崇高で、本当にすばらしい方々での、提供前も後も大切にされるべき方だと思うし、大切にしていきたい。

(後藤会長)

ありがとうございます。

一つの視点から判断するのではなく、医療者やドナー、その他様々な視点の方と情報交換することで、問題点を発見したり、その解決策も見つかったりする場面はあると思う。そのような観点から、四者会議の構成員について、毎回ではなくとも必要に応じて必要な分野の方に参加を呼び掛けるといったことは、検討していただきたい。

また、移植を受けた患者に対する支援や政策に関しては、大きな場では学会となると思うが、県内では神奈川県がん診療連携協議会等での討議になると思う。

鬼塚委員、そのような認識でよいか。

(鬼塚委員)

例えば、移植後のワクチン接種について、市町村によって補助金を設けている、いないといった差がある。現在、ガイドラインで推奨されてるようなワクチン接種はコストが高く、患者も大変な思いをして接種している。そのため、補助の地域格差の是正は非常に重要だと考えている。

また、妊孕性に関しても、国もかなり強力に推奨していることなので、がん診療連携協議会のような会議体に我々も参加し、連携ができればと考えている。

最後に、今回の提案については理にかなっている思う。

(後藤委員)

市町村の足並みをそろえることは中々簡単ではないのかもしれないが、このことについて事務局から発言はいかがか。

(事務局)

提供者にとっても患者にとっても、お住まいの地域で差が生じることは理解に難しい点もあるかと思う。県では自治体に向けて、県内の状況を発信しつつ、自治体が主体的に考えていただけるような環境を整えていきたい。

また、神奈川県では、がん患者に対する妊孕性の温存治療の費用助成もしている一方で、がん診療連携協議会では妊孕性温存治療の施設の先生方に協力いただき、妊孕性温存治療を実施する医療機関同士の連携を非常に深めていただいている。

引き続きこのような役割をそれぞれの会議に持たせながら推進をし、患者の皆様が安心して治療を受けることができる環境作りに努めいく。

(後藤会長)

挙手されている水口様、ご発言ください。

(水口氏 (小畠委員代理))

本協議会の代替策として、四者会議の拡充や他の会議体の利用をすることだが、会議体が分散すると施策の方向性を取りまとめや決定する機能も分散する恐れがあるが、その機能はどこに持たせる構想か。

(事務局)

中心は四者会議と考えている。

四者会議の中で議論をし、現在の構成員で不足の部分がある場合は医療者等の各分野の有識者に参加いただくのか、がん診療連携協議会で専門の先生方に意見をいただくのかは内容によって検討していくと考えている。

(水口氏 (小畠委員代理))

事務局で仕分けをされるという理解でよろしいか。

(事務局)

事務局ではなく、まずは関係団体で構成される四者会議を中心と考えている。

(水口氏 (小畠委員代理))

承知した。

(後藤会長)

挙手されている村上副会長、ご発言ください。

(村上副会長)

今後の方向として、四者会議で議論を深めるという話も出た。構想段階ではあるが、日本骨髓バンク、市町村の担当者、医療の専門の先生にも参加していただき、具体的にご指導いただきながら、患者支援やドナー支援といった内容も含め議論することが、非常に大切になると思う。

また、献血推進協議会については、普及啓発をお願いしているが、将来的にそれ以上のことをお願いできるかはわからないが、そういう

た方法も一つ考えられる。

神奈川骨髓移植を考える会では、普及啓発やドナー登録の活動をしているが、もう1つ大きな支援として患者及び患者家族の支援を行っている。例えば、患者サロン、医療講演会や個別相談会を開催している。このようなことも含め今後の方針の中で、患者支援及びドナー支援を広く推進行く必要があると考える。

また、全国各地で骨髓バンク推進活動をしているボランティア団体で構成される全国骨髓バンク推進連絡協議会という会議体があり、そこでは具体的に患者支援や患者家族支援のための基金を設置し、その基金で各種支援している。移植医療機関等の医療機関でもご紹介いただいているところで、神奈川骨髓移植を考える会に相談やニーズがあった場合には、全国協議会に橋渡しをし、患者支援や患者家族支援を実施している。この支援についても先生方の知恵を拝借しながら考えていきたい。

(後藤会長)

四者会議について、毎回の会議で医療者に参加を依頼すると、本協議会が継続してしまうように見受けられるが、事務局の主旨としては、実際の実効性をもっと持たせるような会議体にしたいという主旨だと思う。

一方で、先ほど鬼塚委員から話題提供いただいたワクチン再接種の問題や妊娠性温存のような移植後の患者にかかる様々な情報は、ドナー候補を含め、骨髓移植を推進する方々にとっても大事な情報であると思う。

そのため、四者会議の2回に1回は、東海大学付属病院の鬼塚委員や、神奈川県立がんセンターの田中委員等の見識のある方に、現在の骨髓移植にまつわる話題を提供してもらうような時間を設ける等、工夫をしていただけないと良いのではないか考える。

他にご発言いかがか。

(辻井委員)

ライオンズクラブが3月24日にかながわ県民センターで、糖尿病と骨髓移植のセミナーを開催する予定である。関係者の皆さんには協力をお願いしたい。

(後藤会長)

その他、ご質問、ご意見等いかがか。

追加のご発言がなければ、事務局から説明した本協議会の方針について決をとらせていただく。

賛成多数のため、事務局から説明した方針で今後進めていくことと

	<p>する。</p> <p>ここまで議事を進めてきたが、全体を通して意見はあるか。また、事務局から何か他に審議事項はあるか。</p> <p>(事務局) 事務局からは、審議事項は他にはない。</p> <p>(後藤会長) 他に審議事項がないため、議事を終了とする。</p> <p>閉会</p> <p>以上</p>
	<p>資料1 骨髓バンク・さい帯血バンクの状況について</p> <p>資料2 神奈川県造血幹細胞移植推進事業について</p> <p>資料3 骨髓ドナー登録者の増加に向けて</p> <p>資料4 神奈川県造血幹細胞移植推進協議会の今後について</p>